

BAMISカフェ

大学と震災ボランティアと今日的課題

文教大学人間科学部 二宮雅也

がんばろう!
～首都圏から



街頭募金への協力を呼びかける文教大の学生たち＝東武・北越谷駅

これが僕たちの卒業式だ。文教大学の4年生ら約200人が16日、地元の越谷市内の駅やスーパーで募金活動を行った。この日予定されていた卒業式が中止され、「それなら」と街頭に立つて、東日本大震災の被災者た

ちへの支援を呼びかけた。

4年生の石野宏明さん(22)と石井大さん(22)が「俺たちなりの卒業式をやる」と、前日にメールやツイッターなどで同大の学生たちに街頭募金を提案。すると、「参加します」との返答が4年生を中心に各学年から続々と集まった。

学生たちは午前中から夕方まで、東武の北越谷駅やせんげん台駅などに分かれ、「よ

ろしくお願いします」と行き交う人たちに声を掛けた。集まったお金は、越谷市社会福祉協議会を通じて中央共同募金会に寄付する。

石野さんは「日本人として本気で取り組みたかった。たった1日でこれだけの人数が集まり、一言声をかけてくれる市民が多数いて感謝している」。石井さんは「文教大の学生の温かさを感じる」と語った。

所沢駅で募金活動

ライオンズ選手会

埼玉西武ライオンズ選手会は16日、西武・所沢駅で募金活動を始めた。午後4時過ぎ、選手たちが自由通路に現れると、乗降客が次々と募金に協力した。

会長の帆足幸投手は「チームに被災地域出身の選手やスタッフもあり、被災し

た家族や友人もいる。被災者の皆様が一日も早く日常生活を取り戻すことをお祈りしたい」とコメントを出した。

23日までの毎日午後3時～7時、同駅で実施する予定。募金は日赤を通じて被災地に贈られる。



東日本大震災発生後の3月14日から5日間、茅ヶ崎駅前（茅ヶ崎市）や湘南台駅前（藤沢市）で熱心に募金活動を行う若者たちがいた。

取り組んだのは、茅ヶ崎市の文教大学国際学部でつくる「文教ボランティアズ」だ。4月1日からは、7、8人のグループを複数作り、約1週間交代で被災地に入った。津波で多くの児童が犠牲になった宮城県石巻市の大川小学校にも向かい、校舎の泥出しに汗を流す一方、子供たちに勉強を教えたり、一緒に遊んだりと支援活動が続いている。

文教ボランティアズは、コ

世界規模で支援活動する学生団体 文教ボランティアズ



中村教授（右手前）と文教ボランティアズのメンバーたち

ソボ暫定行政機構の広報責任者だった中村恭一教授（68）が、2001年に同学部に着

任した際、「学生であっても、国際舞台で役立つことができるといふ意識を持ってもらおう」と結成した。年一回、中村教授が引率してソボ、東ティモール、ボ

震災直後から支援に汗

スニアなどの紛争地域に行き、日本でも集めた寄付金をもとに資金や物資を届け、現地の人たちとの交流を重ねている。

「今年は海外ではなく、日本で活動をしよう」。大震災発生の翌日、中村

教授は学生に向かってこう呼びかけた。震災直後から現地入りして活動する民間活動団体（NGO）に、一刻も早く資金や物資を届けたい。それが復興への第一歩につながるという思いがあったためだ。

2日後に始まった募金活動には、延べ約150人のメンバーが参加した。集まった約430万円は、4月末までにNGO4団体などに配布され、スコップや土のう袋、ガソリンなどの購入に役立てられた。さらに3月末から約1か月、茅ヶ崎など3市で支援物資の仕分けやトラックへの積み込み作業も手伝った。メンバーは、各現場での貴重な体験から様々なことを学

んでいる。

「ソボの経験を通じて、当事者の気持ちに立って物事が見られるようになり、大震災の現場にもすんなり入り込めた」と3年生の蟻坂舞さん。同じ学年の松本佳奈さんは、「全国から大勢集まるボランティアを適材適所にどう生かすか。マネジメント（経営管理）の重要性を感じた」と振り返り、向井信朗さんは「人と人のつながりの大切さを見ることができた。将来は国際協力の場で働きたい」と夢を語った。

被災地は、復興の長期化が避けられない見通しだ。文教ボランティアズでは当分の間、募金活動が続ける予定でいる。大震災の生々しい記憶が少しずつ人々から薄らいだとしても、現地にはまだ救済を求める人たちが大勢いることを忘れないでもらうために。

（北村勤）

文教大学での取り組み

- 大学法人(金銭的援助=他大学と同様)
- BRO東日本学生復興支援本部
(越谷キャンパス、ボランティア活動)
- 文教ボランティアズ(湘南キャンパス、ボランティア活動)
- 父母と教職員の会(被災学生へ金銭的援助)
- 藍盾会(ボランティア活動へ金銭的補助)
- 個人やサークルでの活動(多数)

BRO東日本復興支援本部の活動

チャリティタオル販売からのスタート



BRO東日本復興支援本部の活動

僕らの夏休みPROJECTへの参加



ボランティアの 若者らを支える

東日本大震災で、多くの若い世代がボランティアを志すようになった。とはいえ自力で被災地に入るのはハードルが高い。ボランティアを「学び」と位置づける大学や、未経験者を支える市民団体も出てきた。

販売実習で拠点も

「東北のお菓子いかがですか。工場が被災したけど頑張っているんです」。

はつぴを着た明治大学の学生らが声をかける。福島県郡山市の米、コイの甘露煮、岩手県釜石市の菓子。千葉県浦安市で週末に開店する同大学の「浦安ボランティア活動拠点」だ。

周囲は被災状況の傷痕が残る。震災後に開設した「ボランティア実習」講座の一環で、学生はまず液状化被

東北の被災地から仕入れた食品を売る明治大学の学生たち。販売実習も授業の一環だ―千葉県浦安市今川1丁目



害の聞き取り調査をし、被災地から取り寄せた食品を販売実習。その後岩手県大船渡市へ。発表やリポート提出を経て単位が認定される。約70人が登録した。今春入学した国際日本大学の浅井恵理さん(20)は「誰かの役に立ちたかったけど、どこに申し出ていいか分からなかった」。班長の農学部3年佐藤良宗さん(21)は「皆初めてのなので置いてけぼりにならずに学び

合える」と評価する。

活動を始めて、釜石の洋菓子店主から手紙が届いた。「尊い命は、どうにもできないものの残された私たちに希望と使命を残して下さいました」とあった。

文部科学省は4月、ボランティア参加学生に配慮をし、授業目的と密接に関わる場合は単位を付与できることを通知した。これを機に、大学でこうした動きが広がりつつある。

NPO、初心者配慮

文教大学国際学部では、これまで海外の紛争後の復興支援で学生にボランティア

青山学院大学4年の真野勉さん(24)は宮城県南三陸町にこれまで5回ボランティアに入った。津波で骨組みだけになった小学校が近隣の廃校で再開するのにあたり、掃除を手伝った。避難所で寝起きし、放課後の

ア論の単位を認定していたのを、大震災に適用。宮城県石巻市に中村恭一教授と学生数人が先遣隊で入り、1週間ずつ第9陣まで70人以上の学生を派遣した。

多くの児童が犠牲になった大川小学校周辺に宿舎を構え、昼は住宅の泥出しなどをし、夜は中学生たちの勉強をみる。活動が縁で親たちの恐怖や子どもを失った悲しみなどを聞かせてもらった学生もいるという。

中村教授は「どこかで起きている問題に敏感に反応し、行動できる習慣をつける上で貴重な機会」と意義をこらえる。

(小沢香)

児童の宿題をみたりスポーツの相手をしたりした。これらの活動はNPO法人キッズドア(東京)の主催だ。3泊4日程度のプログラムを月に2回。事前に避難所や学校と綿密に調整し、被災地へはバスをチャーターする。毎回15人ほど参加するボランティアは半数が看護師や保育士などの社会人、残りは大学生だ。用意されたメンタルケアセミナーを事前に受け、被災者との接し方を学ぶことが義務付けられている。

真野さんは震災後、友人らに「被災地に行こう」と声をかけたが、返ってきたのは「授業がある」「アルバイトがある」。移動手段や宿泊まりを考えると単身で行くのもためらわれ、NPOの力は心強かった。

一緒に活動する日本大学3年の小野幹太さん(21)はメンタルケアを学べた点を評価する。ボランティアに発言を吐く子どもにも出会ったが、「一時的に言葉遣いが悪くなることもあると聞いていたんで、受け止めようと思えた」という。

真野さんは「継続的な支援は学生だけではできない」と感じる。「今は愛動的な参加の仕方ですが、いつか自分がリーダーシップをとれるよう、いろいろなことを見ておきたい」

(宍田和幸子)

BRO東日本復興支援本部の活動

フリーマーケットの開催 8月27日・28日



NHK 「こんにちはいっと6けん」で紹介される

[売上]今回のチャリティーフリーマーケットの売上54,090円は
全額福島県いわき市社会福祉協議会さんへ寄附

BRO東日本復興支援本部の活動

TEAM 南郷 南会津の自然で、
子どもとひと夏の思い出を



BRO顧問（私）と大学広報M室とでかわされたメール

- この企画は福島中央テレビから広報マーケティング室へ持ち込まれたもの
- 福島県内でも、放射線量が高くて外で遊ぶこともできない浜通りや中通り地方の小学生を、自然があふれる南会津町（旧南郷村）へ招待して、思いっきり遊んでもらう福島中央テレビの地域貢献事業
- 学生の費用負担はない
- 福島中央テレビでは、この企画の様子を番組として編集して、放送
- そのなかで、文教大学の学生の活動も紹介
- 2本制作し、そのうち1本は文教大学にスポットをあてたものにする
- 広報マーケティング室では、この対価として大学のスポットCMを数十本、放送（広報マーケティング室が開設当初から業務の一部として実施している地方テレビ局との番組タイアップ企画の一環）

ボランティアする大学生の身体

- 学校の名前を標榜し活動する姿（主に、活動の後に大学公式HPなどで公開）
- 統一のユニフォーム等によるメッセージの発進（サポート企業や、大学名、地域名も一緒に）
- 用意されたパッケージングプログラムへの参加（自分と組織の正確な関わり方を不理解）
- 活動の後に、履歴書等に記載
- 表彰等の対象、支援金の授与

ボランティア活動の正当性から、国や地方自治体、民間企業、教育機関とさまざまな主体が、ボランティアする身体を客体化し、その実績を標榜する。大学生は純粋な動機から主体的に行動するも、さまざまな資本によって無意識的に客体化される場合もある。

東京がひとつになる日。東京マラソン 2012年2月26日開催

TOKYO MARATHON 2012

English 简体中文 繁體中文 日本語

サイト内検索

検索

ともに、走ろう!

ボランティアへの
お申込みをお待ちしています

<受付期間>
10月25日(火)10:30
募集定員になり次第終了

SEIKO

東京マラソン2012 ボランティア募集のお知らせ

来年2月26日(日)に開催する『東京マラソン2012』では、大会を支えてくれるボランティアを2011年10月25日(火)より受付開始します。

これまでボランティアに参加した方からは、「頑張った人を応援する喜びを味わいました!」、さらに、ランナーからは、「ボランティアの方々に声援をいただき、なんとか目標時間で完走することができました!」など多くのメッセージをいただきました。このように、東京マラソンは、ボランティアとランナーが一緒になって、大会を成功に導いています。東京マラソンのボランティアに参加して『東京がひとつになる日。』を体感してみませんか?

1. ボランティア受付期間
平成23年10月25日(火)より受付開始(先着順。募集定員になり次第終了)
2. 募集定員
10,000人(募集定員は変更となる場合があります)
3. 主な活動
東京マラソン EXPO 2012 でのランナー受付、ボランティア受付、大会当日のコース(沿道)整理、給水・給食、荷物預かり・返却、完走メダル配布等
4. 申込み方法
・インターネット <http://www.tkyo42195.org/2012/volunteer>
・ボランティア参加申込書(郵送)
5. パンフレット配布開始日
平成23年10月17日(月)より配布開始

詳しくは、10月17日(月)から配布するボランティア募集のパンフレットをご覧ください。

【配布場所】
① 東京都庁(第一、第二本庁舎1、2階案内コーナー) ※平日のみ
② 東京ビッグサイト(正重入口エントランスホール都政PRコーナー)
※なお、パンフレットの内容は東京マラソンホームページにも掲載予定です。

2012 TOP

ニュース一覧

大会概要

コース紹介

エントリー

チャリティ“つなぐ”

ボランティア

公式スポンサー

EXPO 2012

宿泊案内

メディカル情報

過去の大会

リンク

プレス

東京マラソンの名称 ロゴマークについて

ALL SPORTS community

チャリティ“つなぐ”募集受付
お申込みはこちらから

OFFICIAL SPONSOR

東京を走る力

STARS

ランチバック

asics

Amino-Value

SEIKO

みずほ銀行

セブン-イレブン

Asahi

ANA

日本光電

エア・グロブス

KO-YOU

募集定員到達まで

第一回大会(2007年)	86日1万人
	↓
第二回大会(2008年)	29日1万2千人
	↓
第三回大会(2009年)	38日1万3千人
	↓
第四回大会(2010年)	9日1万人
	↓
第五回大会(2011年)	2日1万人

ボランティアスポンサー
としてのマクドナルド

巨大マラソンとボランティア

大阪マラソン2011
神戸マラソン2011
奈良マラソン2011
京都マラソン2012
名古屋ウィメンズマラソン2012

「新しい公共」としてのボランティア

ちょこっとおたすけ支援サービス

2011-04-21

ちょこっとおたすけ絆サポート事業

ちょこっとおたすけ支援サービス
埼玉県地域支え合い仕組み推進事業

加須市商工会・騎西商工会
北川辺商工会・大利根商工会

絆

どんなサービス？
ちょこっとしたお手伝い
地域で広げて、地域の絆と
コミュニティを深めましょ
う！

サポーターって？
ぜひ、あなたも「おたす
けサポーター」をしてみ
ませんか？

各種お知らせ！
「ちょこっとおたすけ絆
サポート事業」のいろい
ろなお知らせです。

誰かの手助けが欲しい人



「絆サポート券」(1枚500円で1時間)



登録サポーターが出動



サポーターが報酬として受け取る券は、
地元商店で金券として利用可能
(地域経済への波及、
サポーターの精神的満足)

「ただし、3年間。立ち上がりは助ける
が、担うのは市民。継続するには、やっ
てみて市民自身がその価値に気づくこ
とが大切だ。」

(上田清司埼玉県知事、朝日新聞2011
年9月26日、15面)

ボランティアと政策

- ボランティア活動は、いかにそれが「自発的」に行われてようとも、行政コストを減らし社会に適合的な「主体」を用意するという意味でシステム転換の要請に従っており、新たな管理体型を支えるもの
- ネオリベリズムとの共振

1995年 阪神淡路大震災

1998年 NPO法

2000年以降 社会福祉基礎構造改革の具体化

(介護、障害者福祉、地域福祉、子育て、健康…)

現代社会のボランティア

- 社会の中で起こるさまざまな困難に対し、互助で助け合う仕組みを、行政や民間が新しく構築する(「新しい公共」論を含む)
- そのシステム構築に公的な資金が準備金として支払われる場合が多い(各種補助金、奨励金)
- このシステム内においては、何らかの経済的価値(将来的なものも含む)を発生させるものを絡ませるものが多い

(就職の為、経費削減の為、合理化の為

→有償ボランティア→NPO)

- 個人的な満足度(自己実現)を求めて行う場合が多い

(経済的自立者の活動、イベント系スポーツボランティアで顕著)